



オーストラリア直送レポート

Vol.7 2025.8.18 別れの日

ドリップストーン校グループ／教育委員会社会教育課 栗栖

吉備中学校 平野

パーマストーン校グループ／教育委員会社会教育課 児玉

八幡中学校 熊ノ郷

[ドリップストーン校グループ]

●8月18日（月）ー19日（火）の主なスケジュール

ホストファミリーとのお別れ — ドリップストーン校に登校 → 授業 → リセス/空港への出発に向け準備時間 → ダーウィン国際空港 → シンガポール・チャンギ国際空港/ジュエル → 関西国際空港 → 吉備庁舎（解散）

現地研修最終日です。スケジュールの都合上、12時半にはダーウィン国際空港に移動することになっています。生徒たちは各家庭でホストファミリーに見送られて学校に登校してきました。泣きそうな顔で教室に入ってくる生徒や、「あっという間やったあ!」と言っている生徒、大量のお土産や手紙をもらってくる生徒など、ホストファミリーとの生活がとても充実していたんだと感じました。

1時間目の授業は、ボールの跳ねる高さを検証する科学の授業や、クッキーの中からチョコチップを発掘する考古学の授業でした。専門的な用語(英単語)が出てくることもあり、難しい場面もありましたが、現地校の生徒と協力しながら授業に取り組む姿が印象的でした。



2時間目は16人一緒にメディアの授業を受けます。生徒たちは先週考えて暗記した（もちろん英語）ダーウィンの良いところを発表して、それを動画で撮影してもらいます。1テイク目、ほとんどの生徒が緊張しながらなんとか撮影が終わりました。メディアの授業ということもあり、「もっと楽しそうに、エネルギーに」という指導が入り、2テイク目、身振り手振りを交えながら、笑顔で撮影を終了しました。（まだデータはいただけていませんが）どこかの機会を見つけて披露したいと思っています。



授業後はリセス（おやつ休憩）と出発に向けた準備時間です。現地校の生徒と話をできる最後の時間でもあります。いつも以上に現地校の生徒が集まってきてくれて、写真を撮ったり、連絡先を交換したりしていました。特に校外学習にも一緒に行ってくれた、ホストファミリーの生徒とは涙ながらに言葉を交わしており、見送られながらバスに乗りこみました。



ダーウィン国際空港に着き、往路の時より慣れた様子（少し緊張していそうでしたが）で保安検査や買い物などを済ませます。午後 4 時半頃に飛行機が飛び立ち、約 4 時間かけシンガポールに到着しました。シンガポール現地の時間は、ダーウィンより 1 時間半遅い、7 時半頃でした。入国を済ませ、大型商業施設のジュエルで各々夕食兼買い物です。集合写真を撮るときは、滝が止まってしまっていたましたが、とても大きく迫力がある施設のシンボルです。



日本行きの飛行機に乗り込むまでの待ち時間には、疲れを見せつつも、オーストラリアでの経験や、寂しい気持ち、日本へ帰ったら食べたいものの話などをしていました。そして深夜の飛行機で日本に向け出発、朝食に最後の機内食を食べ、入国、吉備庁舎には予定より遅れ 11 時半頃に到着しました。

この海外研修を通して、生徒たちは親元を離れ海外でとても多くの経験や人、事柄に触れることができましたと思います。初めてのことや不慣れなことも多く、時には大変でつらい時もあったかもしれません。ただ、生徒たちは全期間をとおり、笑顔で研修をやり切ってくれました。家族の方や友達、先生、後輩、周りの方々には、生徒たち各々の多くの思い出や経験などを聞いてあげてほしいと思います。

最後になってしまいましたが、現地校の先生方には、多大なサポートや特別授業、プレゼント、最後には集合写真とそれを入れるフレームなどもいただきました。本当にいろいろなことを考えてくれ、かなり多くの時間をかけ準備と丁寧な対応をしていただきました。日本でも、保護者の皆さまや学校の先生、その他多くのサポートもいただいた皆さまの力もあり、無事現地での研修を終えることができました。本当にありがとうございました

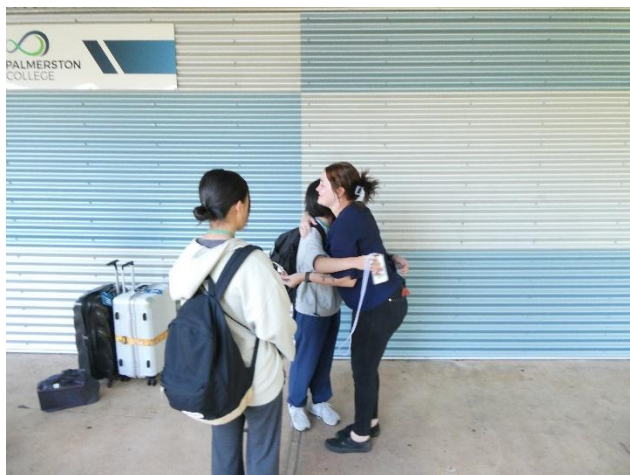


[パーマストン校グループ]

●8月18日（月）ー19日（火）の主なスケジュール

パーマストン校に登校 → フェアウェルイベント → リセス → 買い物（ゲートウェイ）
→ ダーウィン国際空港 → シンガポール・チャンギ国際空港/ジュエル → 関西国際空港
→ 吉備庁舎（解散）

現地研修も今日が最終日となりました。朝8時頃になると、先週と同じように学校に登校してきますが、今日はスーツケースを引きながら、帰り支度を整えての登校です。滞在中に過ごしたホストファミリーの家に帰ることはもうありません。学校が終わるとそのまま帰国の途につきます。登校すると、ここでホストファミリーとお別れになる研修生が何人かいました。家族みんなとハグしたり、ホストファミリーに考えてきたお礼のメッセージを伝えたり、それぞれが別れの時間を過ごしていました。ホストファミリーが涙を流すと、それにつられて研修生もあふれる涙をこらえずにはいられないようでした。



大きな部屋に通されると、校長先生が研修生に向けてメッセージを送ってくれました。また、記念品としてパーマストン校の制服やマグカップなどをもらいました。さらにサプライズとして、動画を見せられました。これは、パーマストン校の先生が、研修生の授業風景や休日の状況を動画・写真で撮影し、それらを音楽とともに編集したものでした。この動画を見て、この1週間あまりで本当にたくさんの経験ができたことをあらためて感じ、同時にそんな日々が終わってしまう寂しさを感じました。

学校が終わると、バスに乗って空港に向かうのですが、少し時間があつたので、大型ショッピングセンター「GATEWAY」に立ち寄ってお土産を買いました。研修生も海外での買い物にすっかり慣れ、



最後のオーストラリア生活を楽しんでいました。

空港でもホストファミリーとお別れとなる研修生があり、ホストファミリーとの別れを惜しんでいました。短い期間ではありましたが、研修生たちはすっかりホストファミリーの家族の一員になったのではないのでしょうか。

16時頃に飛行機に乗り込みオーストラリア・ダーウィンをあとにします。帰りは、来た時と同じくシンガポールを経由して日本を目指します。19時頃にシンガポール・チャンギ空港に到着し、一

旦シンガポールに入国して商業施設ジュエルに向かいます。ここでは、班ごとに食事を取り、買い物を楽しみました。シンガポールを出発したのは夜中の1時を過ぎていて、研修生にも疲れの色が見えてきました。朝の9時頃に関西空港に到着し、入国手続き、両替などを行い、バスに乗って有田川町に向かいます。空港の建物から歩いて出た瞬間の暑さで日本に帰ってきたことを実感します。吉備庁舎に到着し、迎えに来た家族と顔を合わせると、研修生の顔は一気にゆるみました。家に帰ったらきっとオーストラリアでのさまざまな出来事を家族に報告することでしょう。

現地研修を全員無事に終わることができて本当にうれしく思います。今回の現地研修では、オーストラリアの人々のやさしさに触れることができました。研修生にとっては、遠い存在だった世界が一気に身近なものになったことでしょう。残すは事後研修のみとなりますので、研修生には現地研修での経験をじっくりふりかえってもらい、現地での成果を再確認していきたいと思います。

